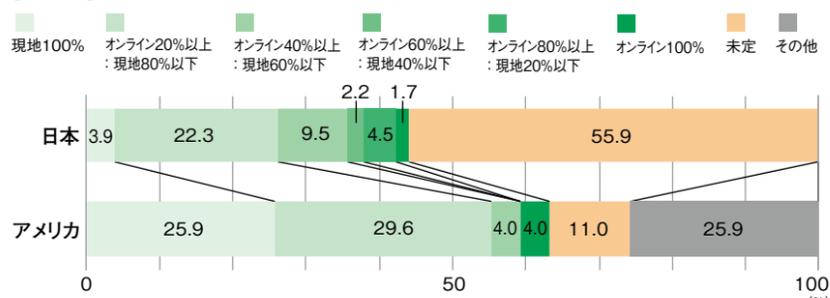


# コロナ以降のグローバル教育の現状

【図表2】アフターコロナに想定する留学形態



\*大阪大学近藤佐知彦教授ら「ニューノーマルの大学間交流」(2021年)  
日本:179大学(調査期間 2021年2月19日~5月31日) アメリカ:27大学(調査期間 2021年3月1日~5月31日)

【図表1】コロナ前後の日本人留学生数



\*一般社団法人海外留学協議会(JAOS)  
「海外留学協議会(JAOS)による日本人留学生数調査2021」  
JAOS加盟の留学業者43社による調査

【図表3】コロナ下での学生の海外派遣再開や別形態での実施例

	名古屋文化短期大学	近畿大学	千葉大学	神田外語大学
時期	2021年3月~	2021年8月~	2021年秋~	2021年6月~
派遣先	2、3年次に中華大学(台湾)、4年次にサンダーランド大学、またはウェストイングランド大学(イギリス)	アメリカ、韓国	北米、欧州、アジア等の協定校	リトアニア、エルサレム、インド、マレーシア(ボルネオ)
対象学生	ビジネス専攻の2年生、100人	国際学部国際学科グローバル専攻の2年生約160人、東アジア専攻韓国語コースの1年生約60人	全学生	新設のグローバル・リベラルアーツ学部学生59人
内容、状況	一人の学生を3か国で教育する日本、台湾、イギリスの3大学共同グローバルプログラム。1年次に日本で学んだ第1期生4人が2021年3月に台湾に渡り、同じくイギリスの大学への進学をめざして中華大学で1年間学んできた台湾人学生約20人と合流。2年後に彼らと共にイギリスへ進学するため、中華大学で現在学んでいる。第2期生6人は日本で1年次を履修中。	事前の教職員現地視察(アメリカ)、24時間電話相談できるヘルプデスクの設置などを行ったうえで、オハイオ、テキサス、ペンシルベニア、フロリダ各州の6大学へセメスター留学。大学附設の語学教育機関で集中的に英語を学習。また、語学力の高い学生は当該大学にて大学の正規科目を履修。留学を希望しない学生については国内でのカリキュラムを別途用意。東アジア専攻韓国語コースは1年生全員が韓国に留学し、徹底的に韓国語を学ぶ。	2021年秋の「海外派遣留学プログラム」で16人、「大陸間デザイン教育プログラム」で3人を現地に派遣。長期留学生一人ひとりに対してGoogle Chatのチャットルームを開設し、留学生課、関係教員の間で情報を共有、支援にあたる。2021年11月時点で、2022年秋の「海外派遣留学プログラム」応募者は21人。	本来は入学後の6月に4つの地域のうち1つに3週間留学する予定だったが、コロナ禍により4地域と日本を結んだ4週間のオンライン留学を実施。前半の2週間は、リトアニアおよびエルサレムとの時差を考慮し、福島県天栄村の同大国際研修センター「ブリティッシュヒルズ」で宿泊研修を、後半の2週間はキャンパスで、インドおよびマレーシア・ボルネオとオンライン授業を実施。

コア化、  
多様化、  
日常化へ

# グローバル人材育成のこれから

人口減少とともに活力を失いつつある日本の未来は、いかに世界とつながり、世界に貢献できるかにかかっている。オンラインによるコミュニケーションが国と国、人と人の距離を取り払った後の、ポストコロナ時代に活躍する人材を大学が育てるには、グローバル教育の見直しと再構築が必要だ。

## グローバル教育の潮目が今まさに、大きく変わる

コロナ禍による海外渡航の制限は、多様な人、文化との交わりを旨とするグローバル教育に深刻な打撃を与えた。2020年に海外に留学した日本人学生数は、2019年の4分の1以下【図表1】。2021年春の時点で、アメリカの大学は現地留学への回帰を想定していたのに対し、日本の大学の多くはその後の留学形態を慎重に検討していた【図表2】。こうした状況下、他大学に先駆けて現地留学を再開したり、オンラインによる新たな留学を提供し始めた大学もある【図表3】。また、海外の学生とのオンライン協働学習\*COILも急速に普及しつつある。オンラインコミュニケーションの進化、拡大により、誰もが世界とつながることができるこれからの時代は、世界との接続が日常化するだろう。大学のグローバル人材育成に対する社会の期待はさらに高まるはずだ。大学が、社会に求められる人材を育成するには、グローバル教育を大学教育のコアに位置付け、オンライン活用を含めた教育手法や交流先の多様化、教育対象を全学生に広げる日常化を行うべきではないか。

\*Collaborative Online International Learning。JPN-COIL協議会の正会員大学数は前年の27から44に増えている(2021年12月10日現在) 文/ 児山雄介